

平成20年度共同研究成果報告

レイニング樹脂によるノンクラスプ義歯の製造に関する共同研究

河野 正司 (歯科技工士学科)

研究分担者 : 佐野裕子, 野村章子, 金子潤
伊藤圭一, 丸山 満共同研究者 : 根岸政明 (東伸洋行株式会社)
竹部茂 (沖歯科工業株式会社)研究の実施場所 : 明倫短期大学
同附属歯科診療所
東伸洋行株式会社
沖歯科工業株式会社

研究成果の概要

本研究グループは、審美性と抗アレルギー性を重視する新素材である熱可塑性レイニング樹脂によるノンクラスプ義歯の製作方法を検討する目的で、本学附属歯科診療所を受診した少数歯欠損症例10名に対して、本研究の主旨を説明し、十分な理解のもとで義歯装着および経過観察を行った。

口腔環境に調和するように微調整を行ったノンクラスプ義歯は、審美性、咀嚼機能、発音機能、心理面において患者満足度は高く、残存歯や軟組織への咬合力によるダメージも確認されなかったことから、レイニング樹脂は義歯の支台装置および床材料に適することを認識した。しかし、本義歯を適正に評価するためには長期的経過観察を行う必要がある。

本共同研究を開始した今年度には、国内の歯科材料メーカーから3種類の新しい歯科用熱可塑性樹脂が発売された。歯科医療分野におけるノンクラスプ義歯への注目度の高さは、都市部では顕著であるものの、地方での普及は今ひとつの感がある。そのような経緯もあり、新潟市産学連携トライアル補助事業の支援を得て、今回使用した歯科用熱可塑性レイニング樹脂の開発および販売に係わる東伸洋行株式会社および射出成形技工を担当する沖歯科工業株式会社との緊密な連携によりノンクラスプ義歯製作方法に関する十分な意見交換を行うことができた。今後は、本学附属歯科診療所の協力により、審美性の追求に加えて、非アレルギー性、柔軟性、強靱性、非吸水性の特徴を活かした新しい義歯治療法として普及に努めたい。そのために、平成21年度も引き続き症例数の確保、義歯の設計・製作方法のさらなる検討を進める予定である。

平成20年度大学地域貢献機能活用事業成果報告

特別支援教育における医療・教育の効率的連携の実現

入山満恵子 (歯科衛生士学科 保健言語聴覚学専攻)

1. 事業目的

特別支援教育に欠かせない「個に応じた教育的支援」を実現するために有用な、言語聴覚士(以下ST)の専門的知識・スキルを教育現場へ提供する。

2. 事業概要

2-1. 内地留学未経験の言語障害・発達障害通級指導教室を担当する教諭に対し、言語発達障害の専門講義ならびに事例検討会を行った。また巡回指導として当該教諭が所属する学校を訪問し、直接的介入および専門指導を行った。研修を受けた教諭にアンケートを行ったところ、満足度は非常に高く、次年度以降の継続を望む声も多くあった。今回の研修内容のように、言語障害・発達障害を担当する教諭に対して言語聴覚士が積極的に介入し、多岐にわたる専門的かつ持続的な取り組みを行うことは、特別支援教育の充実に大きく寄与することが示された。

2-2. 教育・福祉・医療機関関係者を対象に講演会ならびにシンポジウムを実施した。講演会では言語発達障害の臨床に長年従事しているSTを招聘し、子どもの「ことば」をはぐくむために必要な専門知識を3回シリーズで伝授した。またシンポジウムでは「連携」について、各専門職種が情報を共有しながら子どもを支援していくことの重要性を再認識した。

2-3. 新潟市内小中学校の特別支援教育コーディネーターを対象にアンケートを実施した。特別支援教育に携わっている関係者が、医療など教育以外の領域にどのようなことを望んでいるのかを明確にし、現時点での問題点の一端を明らかにすると同時に、今後の方向性について検討した。

3. 成果活用の提案

- ・特別支援学校、言語障害・発達障害通級指導教室に常勤のSTを配置する。
- ・特別支援教育に携わる教諭の、言語障害、発達障害に関する広範な専門知識と技能習得を目指す。かつ、言語発達障害に対する地域間・学校間の支援格差を是正するために、教育現場でスーパーバイズ・コーディネーターできる人材を多数育成する。そのために「専門家に

よる継続的な現場訪問（巡回指導）」のような形態を体制化する。

- ・ 幼児から青年期に至るまでの連続した教育・医療的支

援を可能にするために、幅広い職種を対象とした発達障害の講義をシリーズ化して身近で研修できる場を多く提供する。